

令和6年度第1回宇都宮市社会福祉審議会地域福祉専門分科会会議録

■ 日時 令和6年7月26日（金）午後2時～3時15分

■ 場所 宇都宮市役所 14階 14A会議室

■ 議事 「宇都宮市地域共生社会の実現に向けた福祉のまちづくりプラン」の令和5年度の進捗状況と令和6年度の取組について

■ 出席者

【委員】 舟本肇委員，手塚英和委員，麦倉仁巳委員，鈿持幸子委員，桶田正信委員，興野憲史委員，岩井俊宗委員，浜野修委員，小松整洗委員，木村由美子委員，石井大一郎委員（11名）

【事務局】 [保健福祉総務課] 課長，課長補佐，企画グループ係長，職員2名
地域共生推進室長，事業グループ係長，職員1名

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者 無

■ 会議経過

- 1 開会
- 2 分科会長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 議事

「宇都宮市地域共生社会の実現に向けた福祉のまちづくりプラン」の令和5年度の進捗状況と令和6年度の取組について

5 その他

6 閉会

《発言要旨》

4 議事

発言者	内容
麦倉委員	障がい者の立場から，基本目標1 No3 障がい者への理解促進及び差別解消については，出前講座など様々なところで説明があり，経営者は障がい者の理解促進について理解しているが，窓口の担当者が合理的配慮ができていない。遠慮してしまい，「どういう風に対応していいかわからない」と一歩引いている。障がい者が困っていたら，ひと声かけるようなPRをお願いした

<p>石井分科会長</p> <p>事務局</p>	<p>い。</p> <p>県でも合理的配慮のメッセージや相談の事例集などに取り組んでおり、市も障がい福祉課担当になると思うが、経営者だけでなく、一般社員に向けた啓発を重要視してほしいという点は、特徴があったかと思う。</p> <p>事業者と同時に、一般の市民の方にもしっかりとPRをお願いしたい。</p> <p>事務局の方で補足できることはあるか。</p> <p>障がい福祉課と連携し、いただいたご意見を参考にしながら、取組をすすめていく。</p>
<p>興野委員</p> <p>石井分科会長</p> <p>手塚委員</p> <p>釘持委員</p> <p>石井分科会長</p>	<p>福祉のまちづくりプランを作っていたいて、大変いい試みではないかと思う。地元の自治会でもふれあい会議を開いて、お助け隊をつくるような方向で動いている。</p> <p>先日、近所の家の人々が、救急車をよんだ。92歳の母と59歳の障がい者の2人住まいなので、消防署の職員に、どちらが悪くなったか尋ねたら、「個人情報だから、答えられない」と言われた。普段からその家の娘には、何かあったら、お知らせいただきたいと頼まれている。頼まれているから尋ねたわけなのに「個人情報だから答えられない」と対応された。</p> <p>上司からそのように言われたのだと思うが、こちらは、どうしたらいいかわからなくなる。助けてやることもできないし、娘に連絡することもできない。この辺りの兼ね合いをもう少し考えないと、難しいと感じた。</p> <p>実践者の方で何かアイデアはないか。</p> <p>社会福祉協議会の手塚委員はいかがか。</p> <p>家庭ごとの特殊な事情があるときには、入ってきた人がわかりやすいしくみは持ってはいる。それを補うものとして、個人情報への対策としては、背景を説明いただければ、話せる範囲が限られているかもわからないが対応できる部分もあるのではないか。</p> <p>逆にこれが、家族の連絡先だから、連絡するように消防署に依頼するといい。</p> <p>制度のしくみを作るだけでなく、地域の住民組織とその情報を提供して、いざというときにこれをぜひ使ってほしいという約束の部分を、現場レベルで進めていかないといけない。</p> <p>多分、簡単には解決できない話ではあると思うが、行政が取組を進めていく際に、個人情報の管理だけでなく、いざというときの使い方もアドバイスするなど啓発していかないといけないと思う。</p> <p>事例を2つ、委員の方々から御意見としていただいたので、議事録として残していただき、個人情報に関しての活かし方について、周知していけるとい</p>

	<p>いと思う。</p>
木村委員	<p>最近、自治会で孤独死した人がいた。地域の人に関わっていたので、その後の対応はどうなったかを警察に聞いた。個人情報なので教えられないと言われたため、私の電話番号を教えるので、相手の方に私に電話をくださるよう伝えていただけないかお願いした。相手の方から電話をいただいて、ご家族の方とお話をする事ができた。</p> <p>ほとんど教えていただくことはできなくなっているが、本人から連絡がくるようになれば大丈夫だと思うので、そのように対応している。</p>
桶田委員	<p>老人会で問題になっているのが、居場所がないということ、地域で空き家が問題となっているため、空き家を使った居場所づくりに利用できないか、検討してもらいたい。全国的には、この空き家を使った居場所づくりとして成功している事例もある。</p> <p>もう1点は宮っこの居場所づくりとして、不登校の子どもたちとずっと関わっているが、今年、宇都宮市で中学生の不登校が1000人を超えた。現在の中学生の約1割というデータが上がってきている。これからの不登校の問題にどう取り組んでいくべきか。</p>
石井分科会長	<p>地域の空き家の活用に関して共有できることがあれば、岩井委員からいかがか。</p>
岩井委員	<p>生活安心課の宇都宮空き家対策会議の委員を務めて5年目になる。</p> <p>建物の状態や所有者の意向に伴い、流れが変わってくる。</p> <p>資産価値があって、不動産流通にのるニーズがあるものと、空き家を所有している方で、お金ではなく、地域の活動のために使ってほしいという相談も年間3～4件はある。</p> <p>例えば、昭和子ども食堂の建物は、空き家活用の実例の1つになる。地域の空き家が地域の居場所に代わっていくという事例も毎年1・2件はある。</p> <p>このスピード感が物足りないと思っはいるが、実際は、所有者の特定や建物がすぐに使えるのか、誰が費用を出すのかは、課題になることが多い。特に水道や水回りの配管が劣化していることも多く、実際に見てみると、すぐに使える状態の空き家の方が少ないというのが実情ではある。改修費用等もどのように対応して、誰が出すのかが現状の壁になっている。</p> <p>空き家対策のしくみを御存じでない方も多いと思うので、老人クラブの会員の中でも情報提供していただき、特に使える空き家などあれば、ぜひコラボレーションしたい。</p>
石井分科会長	<p>不登校の話は、不登校になったときに、どれだけの選択肢で進められるかということをもっと進めていかないといけないと思っはいるので、その部分については、担当課にお伝えいただきたい。</p>

手塚委員	<p>資料のスライド 12 基本目標 1 ひとつづくりは順調に進んでいるとある。人材の確保という観点でいうと、本当に順調なのかと思う。評価項目に上がっているものについて、進捗率は評価の通りになるかもしれないが、福祉に関わっている人たちにとっては、人が足りていないという感覚を素直にお持ちになっていると思うので、数字上のギャップが生じているものを受け止めていただければと思う。</p> <p>資料のスライド 25 相談に対する姿勢、相談窓口の周知啓発に努めるというのが姿勢としてあるが、相談先を自分で調べて、相談しなさいというスタンスに読み取れた。</p> <p>好ましくない状態になる前に、周りのやんわりとした情報からアプローチをしながら、望ましい状態に持っていくということもあると思うが、このような人は自分で相談しなさいというスタンスでいいのか疑問に感じた。</p>
岩井委員	<p>今の御意見に対して、厳しい意見になりますが、この評価は、本当に粗いと思う。</p> <p>評価の仕方には、出力数としてのアウトプットとそれに反応するアウトカムと、判別すると2つある。</p> <p>アウトプットは自分で動けば数字が変えられる、参加者が何人来たかというのは、相手が選んで何人来たか、その結果の反応として、何が変わったか、評価には2つあるなど思ったときに、アウトプットが中心に書かれていて、みんなが何をやったかということの進捗報告になっている。</p> <p>目的の評価とは違うと思っている。それは何かそもそも図るべきポイントがずれているということが概ね感じているところである。</p> <p>部分的にいうと</p> <p>No13 若者ボランティアの認定制度について、認定制度の進捗を図るべきところを、若者が何人参加したかが評価の対象になっている。</p> <p>この制度の認証の進捗については書かれていない。このプログラムは20年前から行っているもので、この計画にのっとって始まったわけでもないが、104人が参加して、評価がBというのは、どうなのかと思う。</p> <p>No52 アウトリーチ等を通じた継続的支援事業の評価について、C評価を責めるつもりはなく、現実的な評価でむしろいいと思っているが、令和5年度の実績が105件とあり、取組内容を見ると多機関協働事業につながるというところになっている。つなげた件数が105件であればいいが、相談窓口に来た相談件数(入口)が105件であれば、この目的を図る指標ではないと思う。本当に図るべき数値が何かといったところは、今一度全体検証される必要があると思う。</p>
釘持委員	<p>民生委員の評価がBになっているのがなぜなのか。今日の説明によると、定数に満たないからBになっているのだと思う。民生委員の活動として、私た</p>

	<p>ちが何をしたかということの評価していただきたい。</p> <p>もう一点、No95 L R Tやバスなど公共交通機関のバリアフリーの推進がAというのも、世間の感覚とずれている</p> <p>L R Tは確かに黒字で、よかったとは言っているが、そのおかげで地域のバス路線が減っている。駅に出るのも市役所に出るのも不便になった。それがなぜA評価になるのか、評価の仕方をもう少し考えてほしいと思う。</p>
興野委員	<p>全く同じ意見である。</p> <p>No95 L R Tやバスなど公共交通機関のバリアフリーの推進に関して、平松本町では1時間に1本のバス走っていたのが、L R T開通後は、朝1本、夕方1本になった。</p> <p>どこかに行くこともできないし、帰ることもできない。</p>
石井分科会長 事務局	<p>評価のところに関しては、細かいところもあるが、事務局の方でいかがか。</p> <p>今後検討していきたい。</p> <p>No95 L R Tやバスなど公共交通機関のバリアフリーの推進については、福祉の計画であるため、指標としてはノンステップバスの導入率により評価をさせていただいた。</p>
浜野委員	<p>No57 ヤングケアラー対策の推進について、実際にはケアラーは全世代に出てくる問題で、ケアラーという言葉の概念を周知して、そこから、いろいろな世代の対策をやっていかないとだめなのではないか。</p> <p>栃木県の協議会の方でも、来月ケアラー条例に関する研究会や勉強会を委託事業として実施する。</p> <p>エールUで包括の家族を対象にすると、家族に対して、障がい者もいれば、色々な人もいる。これからじっくりと成長させていきたいとご理解してください。</p>
小松委員	<p>人材育成の話が出た。地域の助け合いの原動力は、福祉協力員と民生委員が末端の支援部隊になっているが、結果的に高齢化でもいいから、名前を出しておけ、共働きで普通の日には動けないという状況になっている。これから困りごとを把握して、その困っている人に連携して手を差し伸べていこうという体制を作っているが、福祉協力員に日常活動できますかとアンケートをとったら、活動できる人は半分以下である。</p> <p>とにかく、どういう形で人材を育成していくか。これが一番の大問題である。</p> <p>2点目は現場で、どのような人が困っているのか、民生委員の名簿、敬老会の名簿など、いろいろあるが、最終的にはプライバシーの問題で目的外では見せられない。</p> <p>困りごとの人の情報をどのようにとらえるか、その対象人数さえ、把握がで</p>

	きない。
木村委員	<p>河内で住みたいかどうかのアンケート調査を行った結果、今後住みたいというのはほとんど岡本地域、ここにはいたくないのは田原地域、それはなぜかというところ公共交通網が非常に不便だということ。高齢者になる前の車に乗っているときはまだいいが、車に乗らないと不便で、子どもが高校生で引っ越してしまう人が結構いるので、年をとって車に乗れない人はそこまで、住みたいくないということになる。</p> <p>No84 誰もが利用しやすい公共交通ネットワークの構築とあるが、取組をみると今あるバス路線の維持存続のみで、それを充実していくというものはない。LRTが通ったら、バス路線が充実すると聞いていたが、よく話を聞いてみたら、それは西口にLRTが通ったらという話になってしまいショックを受けている。私たちにも住む場所を選んだ責任はあると思うが、公共交通の充実をしていくというのは非常に重要で、そこを抜きにして人の幸せはないと思う。この公共交通の充実は、福祉を考えたときに、大変重要な観点になっている。</p>
舟本委員	<p>No15 宮デジサポーターは素晴らしい取組ではあると思うが、目標 20 名で、1 年間を通して実績が 40 名で A となっている。評価としてどうなのか。そうではなくて、これからの生活にとって、せっかく持っているスマートフォンなどのデジタル機器を便利に使えるように積極的に進めていくことで、何かあったときにも情報だけはつながるということはあると思うので、今後の取組に活かしていただきたい。</p>
石井分科会長	<p>それぞれの委員からお話を伺い、今後に向けては、評価に関するところは、ここで出ている評価と、現実とのギャップについては、評価の仕方の問題と目標の設定の問題、アウトプットやアウトカムが、わかりにくい。</p> <p>ただ行政の方が評価のために、一生懸命仕事をするのもおかしいことでもあるので、ここはすごくギャップがあるというところに関しては、今いただいた意見を基に書き方など少し改善があってもいいのではないかと。中期的にはこの評価の枠組みや仕方について再検討するということは思ったが、岩井委員はそのあたりも詳しいので、アドバイスを聞くといいかもしれない。</p> <p>公共交通の充実について意見があったので、福祉の部署ではないかもしれないが、福祉のまちづくり分野として、極めて重要という視点については、ぜひ担当部署にお伝えいただく必要があると思う。</p> <p>山間地や過疎地に行くと、どう税金を使い、民間と協力し合うのか、市民がそれをどう使うのか、これからの方針をしっかりと出させていただくことも重要になっている。</p> <p>個人情報に関しても、これがネックになって、助けられる人も助けられなか</p>

	<p>ったり、あるいは近所の方たちとのつながりも作らなかつたりということもあるが、個人情報を守るだけでなく、上手く使い込むための事例を、もう少し地域の方に普及していく必要があると感じた。</p> <p>防災関係でも、個人情報をもらうときに、万が一のときは、それをこの組織とこの組織に共有しますということに押印してもらっている。そのようにして個人情報をもらうときにもポイントがあると思うので、整理して出していくということかと思う。</p> <p>宮デジサポーターや人材育成、教育の話も出ていたが、学生は福祉業界に就職していくという状況があまりない。勉強するときには関心を持ってボランティアをするが、就職していく人は少ない。</p> <p>これは多分福祉業界側の情報発信の問題もあると思うが、福祉業界が就職先としていいという見せ方も含めて、官民でうまく就職につなげるような応援をしてもいいと思う。</p> <p>ヤングケアラーなど、言葉の使い方も時代によって変わってきたり、重視する点は変わってくるので、ヤングだけではなく、ケアラー全体に焦点を当てていく必要があると思った。不登校についての話題も上がっていた。</p> <p>個別の意見で解決策というのは難しいとは思いますが、最後に事務局の方でいかがか。</p>
<p>事務局 (小室課長)</p>	<p>公共交通については、担当課と情報共有させていただく。</p> <p>個人情報については、事前に活用範囲の同意を合わせてとるなどの工夫についてPRし、周囲にあまり知られたくない人もいる中で、様々な人に合わせた対応ができるように取り組んでいく。</p> <p>人材育成については、数年前から市内の高校生向けに、介護職の体験ができる取組を始めている。</p>
<p>石井分科会 長</p>	<p>実際に体験をして、大変だと思える人もいると思うが、新しいユニークな取組をしている事業者も出てきていて、探してみると地方都市の福祉は未来があると思うので、長い目でいければと思っている。</p> <p>議論は出尽くしていないところがあると思うが、予定時間もきたので各部署にしっかりと戻していただきたい。</p>